軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI　第７号　　2017.4.21.

軽井沢教会での演奏会

３月 12 日、軽井沢教会での演奏会には大方の皆さんの参加をいただき、「地元の合唱団」の姿を印象づけることができ、嬉しいことでした。会場の大きさやつくりのせいもあって、声がまとまった力になり、聴いている方々が歌うにつれのってこられるのが感じられました。それはただの自己満足でもないようで、演奏後の皆さんの声からも伺えるところでした。たとえば、後に送っていただいた感想文をご紹介します。「リコーダーや古楽器の演奏も素敵でしたが、合唱団の歌が素晴らしく、人間の声の力というものを改めて感じ、深い感銘を受けました。まさに生きる喜びを感じさせてくれました」。少し照れくさいかな。

くにチャンちまさチャンち訪問演奏

昨年クリスマスにはじめて訪問したときは、くにチャンちの皆さんがインフルエンザで出席できなかったので、今年の訪問第１号にしました。今回は全員元気に参加してくださいました。こちらも 13 名で、しっかり歌えました。こうした施設では、ステージがなく、一緒にじかにいる感じがあって、歌う喜びも聴く喜びもじかに伝わってきて、不思議な感動があり、こちらの方が励まされているような思いになります。今年もできるだけ施設とか病院とかを訪問したいと思います。

今回は新人・中堅・最長老の３人の方のお話を伺います。

自己紹介

幕張メッセに住んでいて、東北震災後、８匹のシッポの子達（犬）とともに軽井沢へ一時避難のつもりが早５年カラオケも未経験なのに、合唱団の平均年齢に安心しつつ、入ってビックリ，なんと云うことでしょう、こんなに頭を使うとは。童謡ってこんなに難しかったっけ？ふ、ふ、仏蘭西語、鼻から吸って口縦横に開いて、頭の裏から息だして、次はえーと、えーと、練習で寡黙になってどうする、頑張れ、自分。

「自分」の「心」と書く「息」の字のように、良い息をして心を広げた「息の合う」ハーモニー、分かり易く豊かな指揮、超絶技巧のピアノに導かれ、４声に包まれる心地よさ。非日常的に金曜日を息切れしながらも存分に楽しんでいます。

最後になりましたが、アルトの木村攝子と申します。どうぞ宜しくお願いします。

合唱団つまみ食い　　久保マサ子（アルト）

合唱好きな方の中には、いくつもの合唱団かけもちという方が少なくありません。きっと歌う胃袋が丈夫で、同時にさまざまな食べ物（曲）を消化吸収できるのに違いありません。私の場合は、これまで合唱団つまみ食いでした。でも、シンフォに到りついてここが終着駅と思っています。

最初のつまみ食いは、学生時代の混声合唱クラブ。バッハのオラトリオ中心の定演の他、地方公演もあり、練習も充実。でも合唱漬け学生生活とうのが苦痛で、２年で退部。次に日フィル合唱団創立時に入団して第九でデビュー(?)！練習場所が職場や家から遠くて、これまた途中で断念。しばらく合唱から遠ざかりました。

退職後、単発合唱団で行こうと、神奈川県民ホールが募集していた「ブリテン作曲『戦争レクイエム』を歌いませんか」の呼びかけに参加。メンバーの多くは合唱団仲間が誘い合って来ているらしいのに私はひとり。リズムの難しさと初めてのラテン語にへとへと。

大編成のオーケストラに子どもの合唱団、ソリスト等々舞台いっぱいのメンバーに混じって何が何だか・・・といううちに幕。こりゃだめだと心を入れ替えて、横浜ＹＭＣＡ合唱団へ。ヴォイトレ、パート練習、合宿と練習時間が多くなりましたが、おかげで合唱の醍醐味が少しずつ分かるようになりました。そして軽井沢に転居、現在に至っています。

振り返ってみると、合唱団つまみ食いの年月でした。もう何でももりもり食べられるトシでもありませんので、誤嚥に注意してじっくり味わおうと思っています。

コーラスは若さの秘訣　　北澤盛雄（テノール）

軽井沢シンフォニックコーラスは結成から 12 年、『美しい村』の発表会から 10 年、「光陰矢の如し」です。

亡くなられた寺田泉先生とは同年で、軽井沢中学校に勤められていたころから親交があり、発表会の時にメンバーに加えていただきました。

私は歌うことが好きで小学校から高等学校まで楽しく音楽を続けてきまして、一時音楽学校に進学したいと思ったこともありましたが夢に終わりました。

「好きこそものの上手なれ」と言われますが、基礎学力がない私は楽譜から音がとれません。でも、皆さんに助けられて合唱を楽しんでいますが、曲のレベルも上がっているためか、他のパートの声を聞いて歌うことは大変です。

私は 80 歳を超えまして老化現象が進む年齢ですが、楽しく歌うことで若さが保たれていると思っております。発表会を目標に、爽やかで心地よいハーモニーが生まれるように努力しますので、ご指導宜しくお願いいたします。

５～６月の予定

５月　12，19③，26 日
６月　２，９，23③日　　11 日（日）緑の音楽祭　詳細は練習時に。
７月以降は、石巻に持っていく歌に集中して、特別な練習形態をとることが考えられますので、日程等追ってお知らせします。

運営会　５月休会
　　６月 16 日予定

演奏曲目あれこれ

黄金虫

コガネムシと聞くと、東京育ちの真﨑は「カナブン」を思ってしまいます。金色に輝く緑色のあの虫がこの歌の黄金虫だと今の今まで信じていました。ところが、もしかしたらとネットで調べてみたら、作詩者野口雨情の故郷茨城県をはじめとする北関東では「ゴキブリ」のことを黄金虫といい、茨城県独自では「タマムシ」のことであると書かれていて、わがカナブンはほとんど無視されていました。

カナブンは東京にはたくさんいて、イチジクとかブドウなどにたかるので、子どもの頃は捕まえては地面に叩きつけていました。編曲者の岩河さんはやたら憎らしく歌うようにコメントをつけているので、なおさらこれだと思っていました。タマムシはきれいなので「黄金」にはふさわしそうですが、それほどたくさんは見かけません。しかしネットの筆者は合理的な可能性が高いとしています。ゴキブリ説は相当こじつけ的ですが、繁殖期のメスは腹の下に卵をいれた袋をかかえていて、それががま口のように見えるから、といいますが、さて？　いずれにしてもはっきりしません。興味ある方はネットでどうぞ。真﨑は果物の蜜（水あめ）を吸い、きらきらしているカナブンにしておきます。